

東京学芸大学

先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット 2025

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

外国人児童生徒教育
推進ユニット



第3回 実践交流会（東京）

多様性が活かせることばの教育実践
ー私の実践を語り・子どもの姿に学ぶー

2025年10月4日

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

齋藤ひろみ(東京学芸大学)

コメンテータ 村松好子(梅花女子大学)

浜田麻里(京都高育大学)

実践交流会 趣旨

日本語教育・支援の現場は、子どもたちも多様(言語・文化背景、来日の経緯や滞日期間、ことばの力や認知・学力の発達状態)であれば、教育・支援現場も多様(地域の多文化化の状況、組織・団体としての考え方、日本語教育・指導の仕組み、人的配置)、そして携わる者も多様(立場・教育経験・教育観・言語指導の知識・技能)です。その現場で、教員・支援員の皆さんは、子どもたちがことばを豊かに運用する力を高めるため創意工夫をして教育・支援活動を行っています。その皆さんが相互に実践を語り合い・学び合う場がこの実践交流会です。

自身の実践について語り、具体的なアイデアを共有するとともに、その背後にある子ども観、学習観、言語観を交差させながら、今後の実践を展開するための省察に基づく気づきと、新しい発想を得る空間にしたいと思います。参加される皆さんが、次なる「子どもたち・現場・教員の多様性が活きる実践」に挑む契機となれば幸いです。

第3回 実践交流会 プログラム

1.開会
趣旨説明
13:00－13:10

2.ワークショップ
13:10－14:30

3.休憩・準備
14:30－
14:40

4.実践交流
14:40－
16:00

5.振り返り
16:00－
16:30

ワークショップ

教科等と日本語の統合学習

－「JSLカリキュラム」の事例から－

齋藤ひろみ(東京学芸大学)

実践の経験から学ぶ

学びの出発点: 経験

- ・自身の観察
- ・状況への参加の方法
- ・体系的に思考

⇒ **ALACTモデル**

既にある枠組みを用いながら
経験から学んでいる
・・・自覚化も必要

行為の選択肢の
拡大 (Creating
alternative
methods of
action)

経験による学びの
プロセス (循環型)
ALACTモデル
(コルトハーヘン)

本質的な諸相への
気づき
(Awareness of
essential
aspects)

試み
(Trial)

行為
(Action)

行為の
振り返り
(Looking back on
the action)

実践交流：事例紹介（グループで）

お一人の持ち時間 13分間

実践の紹介(5分)

1)取組(実践)の前の問題意識

子どもたち、あるいは教室の実態と設定した課題

2)取り組みの工夫

課題を解決するために具体的にはどのような工夫をしたか

3)結果

一定期間実施してみた結果、どうであったか

話し合い(8分) ★質問・コメントはこちらで

16:00～全体で振り返り

話し合いを通して気づいたこと

調整・修正しよう、新たにチャレンジしようと思ったこと



実践交流

タイムテーブル

セッション1 14:50-15:20

実践内容に共通点があるグループで

セッション2 15:25-15:55

前半 7名が紹介

後半 8名が紹介

経験からの学びの条件

= 実践交流への参加姿勢

- ①安心して学ぶ
(共感的に実践紹介を聞く)
- ②挑戦に積極的になれる
(「プラス面」を積極的にコメント)

⇒参加者主体のプロセス

交流グループ

セッション1 14:50-15:20			セッション2 (3部制) 15:25-15:55
A1	学校・教室 日本語指導	暁英子・新聖子・村里雅子	暁英子・蔭山郁子・ 下山知子・水井直光・ 西村聖子
A2	学校・教室 日本語×教科	浦久仁子・蔭山郁子・ 南晶子	
A3	学校・日本語プロジェクト ワーク	下山知子・松本香織・ 吉田貴子	新聖子・南晶子・ 松本香織・田中尋子・ 石動徳子
B	地域支援教室 日本語学習 支援	水井直光・田中尋子	
C	キャリア教育・居場所づくり	折本早木子・西村聖子	村里雅子・浦久仁子・吉 田貴子・折本早木子・ 森田美紀
D	校内体制・教員研修	石動徳子・森田美紀・	

実践内容 ※セッション1のグループ

	お名前	実践名
A1	暁 英子	サバイバル日本語から教科学習へ
A1	新 聖子	新聞記事を活用した日本語学習の可能性
A1	村里 雅子	夏休み日本語教室
A2	浦 久仁子	お仕事条件ランキング
A2	蔭山育子	小学校での教科に繋がる日本語(国語)
A2	南晶子	日々の取り組み
A3	下山知子	「こんな自転車ほしかってん！コンテスト」に応募しよう
A3	松本香織	JSL教室との連携や発表会
A3	吉田 貴子	「私の住んでいた町を紹介」
B	田中 尋子	地元の国際交流協会実施の日本語教室
B	水井直光	尼崎市放課後日本語ボランティア派遣事業
C	折本早木子	日本におけるキャリア形成の考え方と実践
C	西村聖子	つどいば中高生の会(仮)
D	森田美紀	校内支援体制コンサルテーション
D	石動 徳子	教員研修での実践

留意事項：実践交流に参加するに当たって

- 1 実践紹介について、実践現場の責任者の許可を得ること（必要に応じて保護者や同僚、子どもからも）
- 2 発表内容に、既成の教材などを利用した実践がある場合は、その出典・出所を明記すること
- 3 交流会で知りえる個人情報（個人、学校、地域団体）については守秘とすること
- 4 交流会で紹介される教材等の創造物（知的財産）については、無断で利用しないこと

振り返りの視点 ALACTモデルに基づき



振り返り

- ①(L)自らの枠組みや先入観(前提)の把握
- ②(A)自らの実践についての新たな気づき
- ③(C)他の方の実践から得た
アイデア・考え方
- ④(T)これから挑戦してみようと思ったこと

振り返りの視点(付箋での活動で) ALACTモデルのに即して



振り返り

- ①自分の実践の新たな意味への気づき
(行為の振り返り)
- ②想像していなかった子どもの姿を発見
(本質的な気づきに向けて)
- ③実践のアイディアをありがとう
(行為の選択しの拡大)

アンケート記入のお願い

今後の活動で参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

<https://forms.gle/P4zJ6S3Mo7SUGE2U7>

実践の概略のウェブ上での紹介を是非！

実践名（時間）

実践者（ご所属）

1 子ども

2 目標

3 活動

4 工夫

★可能であれば資料も（1枚）

実践名（時間）

実施者（所属）

1 子ども	
2 目標	
3 活動	
4 工夫	

資料（種類： ）

ありがとうございました

